

■ R1. 7. 8 市長定例記者会見内容

日時 令和元年7月8日（月）午後2時～2時50分

出席 市長、副市長、危機管理監、総務部長、企画部長

酒田記者クラブ（7社）毎日新聞、河北新報、荘内日報、山形新聞、朝日新聞、読売新聞、NHK

■市長発表内容

【姉妹都市ジェレズノゴルスク・イリムスキー市使節団の訪問について】

7月23日（火）～28日（日）の日程で、姉妹都市ジェレズノゴルスク・イリムスキー市の使節団が本市を訪れる。ジェレズノゴルスク・イリムスキー市と酒田市は、昭和54年に姉妹都市の盟約を締結してから、青少年・スポーツ・文化のさまざまな分野で交流活動を続けてきた。これまでの両市間の交流においては、ジェレズノ市からの訪問及び酒田市からの訪問は、合計51回、延べ701名に及んでおり、市民レベルでの相互理解と国際親善が深まっている。

今年度は、姉妹都市の盟約締結40周年を迎えるにあたり、盟約締結40周年を記念する式典を実施し、記念協定書を調印する予定をしている。また、今年の使節団には、昨年、都市間交流における国際コンクールで受賞したジェレズノ市児童芸術学校のコーラスグループ「カンツォーネ」のメンバー6名が同校の教員とともに含まれ、このコーラスグループから7月27日（土）の「市原多朗マスターコース」の若手声楽家によるコンサートに特別出演していただく予定になっている。この若手声楽家の中に、ロシアサンクトペテルブルク市出身のユシマノフ氏がいる。同氏との共演も予定されている。

40周年の節目ということで盛り上げていきたい。事業概要については資料のとおり。

【「旧割烹小幡」運営予定者の審査について】

4月16日から6月17日までの2か月間「旧割烹小幡」の運営希望者の募集を行った結果、2社から応募があった。2者を対象に公開プレゼンテーションを実施する。結果については、7月19日までに市ホームページにて公表する予定だが、審査段階での2者の社名の公表にはしないことにしている。各記者の皆さんには、プレゼンテーションの傍聴で候補者名が分かったとしてもご配慮いただきたい。今週7月12日午前中に2社からプレゼンテーションを受ける。

詳細については交流観光課長から補足する。

【質疑応答】

記者／2者は市内か市外か、飲食店という認識でいいか。

市長／市内、飲食店。

記者／応募にあたり、酒田市からの働きかけというよりも本人たちが情報を仕入れて手を挙げられたという形か

市長／基本的にはそう。サウンディング調査などわからない部分については聞いていただき、情報を提供しながら最終的にはそれぞれ判断されて応募したという理解でいる。

記者／公開プレゼンテーションに一般の方は何人入れるか

交流／100名くらい

【懇談・フリー質問】

記者／一部報道された来年度の酒田市の財源不足という話が出たが、詳しく話を伺いたい。実はこうだ、こう対策するなどあれば。

市長／一部報道されて、それがネットに載ってダーツと全国駆け巡った節もあるが、おそらく各記者の皆さん、これまでの経緯がわかっていなかったのも、議会の話の中身、あるいは録画等を見て切り取るとああいうことになったのかなと理解はしている。少し経緯をお話すると、実は平成28年の2月くらいまで、これは議会からもいろいろ要望があり、5・6年先の財政の見通しを資料として出さなさいと言われてのが過去にあり、28年の2月まではそういう財政見通しを出していた。これはどういうものかということ、28年の時に出したのは、27年度から33年度までの期間の歳入の見通し、歳出の見通し、そして当然のことながら歳入で賄えないくらいの歳出があり、不足額というか、歳出から歳入を引いた残りの分は不足額になるわけなので、その不足額の数字を出した財政見通しなる資料を議会にずっと出していた。これは私が副市長…かなり前4・5年前になるが、そういうものがないのかと言われて、その当時は本間市長か阿部市長だったか、資料として5年先まで毎年毎年、これくらいの歳入、これくらいの歳出、このくらい財源不足になりますよ、という資料をずっと出していた。結局その財源不足の部分については、財政調整基金とか市債管理基金とか基金がこれだけあるので、それを崩して穴埋めすることで収支バランスが取れるような、そういう財政運営をやるという資料を実は出していた。その資料を見ると結局何年度はマイナス何億円とか、要するに歳出の方が多いという風な資料で出ていた。私が市長になって、議会からもそういう財政見通しでいいのかと、結局赤前提の財政見通し。歳出の方が多いということ。やはり財政見通し、財政というものは歳出から歳入を引いて赤が出るような予算組みは普通はしない。それはちゃんと歳入歳出同額でバランスをとった予算ということで議会にも提案するわけだし、財政の見通しを出すに当たっても、そういうものを出さなければいけないのではないかとという風に言われていた。それを受けて実は平成29年の8月、おととしの8月23日、これはホームページにも上がっているのでご覧いただきたいが、酒田市中期財政計画なるものをまとめて、それを議会と一般の方に示した。この中身がどうかということ、歳出から歳入を引いて赤になる分については、財

政調整基金とか市債管理基金を、取り崩すことによって収支不足ゼロという形になりますよということで、5年間の5年先の計画、それぞれ、5年間の計画を出した。それが平成29年の8月23日。毎年出すのはなかなか精緻な検証とかいろいろ、予算って毎年変わるでしょう。見通しの通りサッと予算金額が合うってということにならないので、少しずつずれが出てくる。私どもはそういったことを詰めながら予算を組んで、内部的にはその組まれた予算、決算を受けながらまたローリングして、5年先の予算こういう風になるかなということ計画するわけだが、今回38億という議会の答弁でもしゃべってはいるが、29年の8月に財政計画を出して以降、財政計画は出してないので議会からはそういうものを出さなければいけないんじゃないの、出してという質問だったと思っていて、それについては今年の秋には財政計画をもう一回立てて出すという答弁をさせてもらった。その際にいろいろな会合で私がそういうことを言ったということ質問の材料にされたため、実は次に中期財政計画をまとめるが、内部的には今年度の予算が固まった時点で来年度以降どうなるかという議論を財政当局内部としたときに、いま私がやりたい事業全部やるとすると38億くらいの財源不足になるので、もっと事業を見直しをして縮小したり、あるいは翌年度に送ったり、あるいは当然のことながら単年度単年度の実質収支ということで翌年度に繰り越しする金額も出てくるわけなので、そういうものをうまく調節しながら歳入と歳出、収支バランスとれる予算組について来年度に向けて作業をやっていくということ言いたかった。それが38億足りない、今にも財政が破たんするみたいな形でとられてしまい、その情報がダーッと一人歩きしたということについては、私としてはあれは作業過程のなかの一試算段階での情報がそういう風に流れたということで、これから当然のことながら歳入と歳出がバランス取れるような予算組みをする。その中では事業をやらなければならないものはやるが、急ぐ必要がないものはあと送りするし、事業規模としてでかすぎるものについては圧縮をするし、そういう形でしっかりとバランスを取りながら健全財政のその市政の経営をやっていきますよということ言葉として書いてもらえれば誤解はなかったのだろうが、そっちの部分がなくなると、これはまずい情報が出てしまったかな、なんていう思いでは見ていた。だから、議会はたぶんわかってくさるから、あまり問題にしないと思う。最初は財政見通しという資料を出した時には、本当に、何億、何十億足りないという財政見通しを出していた。そのいわゆる投資的経費と言われている部分、来年、再来年、その次の先を見通した年に、いろんな事業がやりたいというものがあるわけだが、全部やるという前提で予算を組めば、必ず財源が足りなくなるのは当たり前で、そういう意味で、ちょっと記者の皆さんは過去の経緯がわかって、議会から財政の見通しを出せ出せと言われていた当時、私も財務部長だったりしていたので、出せというなら出すけれどもということで。ただその当時は歳入と歳出とバランスのとれた財政見通しを出すことにはちょっと抵抗があった。まだ毎年毎年予算編成の中で、この事業はやるとかこの事業はや

らないとか決めていく。その段階で収支バランスのとれた財政展望を出すということは、あたかもやる事業が決まっている、5年先まで全部決めていくということになるわけで、しかし予算編成は生き物で、例えば年度後半に急ぎよ、去年のエアコンのように、ズドンと出てくるものもある。逆に収支バランスのとれた財政展望を出すと、その通りやってないじゃないか、おかしいじゃないかという話で議会から質問攻めされることもあるかもしれないので、想定、見通しだから、ずれることもあるという前提で、このくらいやるべき事業を全部やって合併特例債を全部使うという前提で全部やっていくと、このくらいの赤になってしまうという資料でとどめようということを出していた。でもそれではおかしいんじゃないか、予算を組む時収支バランスとった予算を上げるでしょうということ、いろいろやり取りがあって、そこで私が市長になり、わかりましたということで、それで今ホームページに載っているような中期財政計画というものをつくり、結局、財政調整基金をこの年度はこのくらい取り崩して、あるいは市債管理基金をこのくらい取り崩して収支バランスの予算をゼロにして予算組みをやるということで、これもでもあくまでも想定。想定で見積もった財政計画を出すことにした。それが平成29年の8月、2年前。本当はさっき言った財政見通しは毎年出していた、議会に対しては。年度2月くらい。2月くらいにだして、3月に予算決まると当然土台がずれる。また積算をして翌年にはまた出すということで毎年出していたが、財政計画のように精緻にいろいろな積算とか検証した計画を毎年出すのはなかなか厳しいため、今回29年8月に出した計画についてはしっかりまた検証した上で、そして29年度と30年度は決算があり、31年度は予算が出ているので、その数字を入れ替えた段階での5年先の財政計画をやはり出さなければいけないなということで、この秋に向けて財政課でこれから作業を詰めていく、このように思っている。

記者／すみません。昔の経緯わからなくて。財調なんかは、取り崩した分に関しては翌年度の決算なんかで作り直すとか、そういうのは普通なのかなと思っていたが、酒田市ではそういうこともやらなかったり、特に実質収支黒字分の、国の法律の上ではもう一回使わずに積みなおしたほうがいいという風になっていたと思うが、やらずに使ってしまったというのものもあるようなので、どうなんでしょうねと思う感じは多少あった。

市長／先だって財政の研修会を内部で行ったが、福井とか除雪でズドンとあれば財政調整基金全部使ったりする。そういう予期しないものが出てくると財政調整基金を取り崩して財源として扱うしかない場面が結構最近ある。エアコンもそうだったが、災害もそう。しかし一方で財政調整基金がある以上は一定程度抱えておかないと、緊急事態の時に使えない、そういう面ではこれまでの予算を組んで決算の財政の状況を踏まえ、いま私がやりたいと思っていること全部やり切ったら、やはりそれくらいお金が飛んでいく。そこは少しやるべき事業についても精査をする必要があるんだろうと思っている。財政は、財政課長も総務部長もしっかりしているので、

破たんすることがないように組んでもらうと思うが、ただ、市民サービスという面での歳出については、いろんな意味で少し検証して、あまり湯水のごとくお金を使えるような状況ではないというのは、市の財政としては今の状況かなと思っている。記者／たまには記者が、面白おかしく書いたほうが緊張感があっていいのでは市長／どうですかね、それはどうなんですかね

記者／恐らく、財政が厳しいのはどこの自治体も同じで、そこだけを問題視しているのではなく、あの段階の記事でいえば市職員の削減までというような話があったので敏感に反応されたんだと思うが、同じように市長が今言われたように事業の削減とか先送りは当然のことだと思う

市長／人件費も、確かにそういうようなことを一般受けすることで触れたことがあったかも知れないが、あの時も議会でも答弁したが、これまで決まっているものをそう簡単に削減できるわけもなく、人件費については手をつけるつもりは基本的にはない。ただ、3月議会で我々の給与を下げた時にも言ったが、一般職でない人に対しての人件費の有り様というのはいろいろ考えていかなければいけない場面がこれから出てくるかもしれない。全部市民にだけ背負わせるわけにはいかない場面というのはあるんじゃないかなと思う。その辺は引き続き我々としても緊張感を持って、我々の給与とか考えていかなければいけない。

記者／ごみの有料化はどうなるんですか

市長／本市だけの問題ではない。遊佐町と庄内町とで広域行政組合を組んでごみ処理している。ごみの減量化が一番の目的なので本市だけがやればよいという問題でもない。両町としっかりコンセンサスを取りながら、その上で判断していくべきことだと思っている。あたかももうやるみたいなお話になっているが、今のところそこまで決断していない。

記者／先ほどの38億の話で、市長がやりたいことを全部やったらという話だったが、中期財政計画で平成29年8月の段階の資料の基金の予想残高と今年3月段階での現状を比較した差額があって、そこに市長がやりたい事業をプラスした場合に38億になったという認識でいいか？

市長／そう。

記者／今の話だと市長がやりたいことだけで38億、すごく大きい何かがあるのかななんてイメージしてしまったがそういうわけではないんですね。

市長／結構今年度、昨年度も含めてだが、調整基金をだいぶ食いつぶしている、そういうことですよね。そういう面では本来1年終わって不用額という予算が出てきて、本来その翌年に繰り越されたりする。その財源をまた基金に積んだりして、翌年財源で崩したりすることになるが、その部分が極めて少なかったということは、積みたくても積みなかったということもあり、今後に影響を及ぼしますよね

記者／つまり、財源不足という話が先ほどあったが、予算編成はこれから？毎年8月くらいから？

市長／そう。各課で積算し始める。

記者／だとすると、そこで先ほどおっしゃったように、いろいろ精査するなかで財源不足っていうのは基本的に陥らないし、収支のバランスっていうのも基本的に均衡がとれている、それは来年度以降も繋がっていくという形か

市長／そう。予算で、最初から赤字の予算なんて組めないんで、それはもうそのように努力しなければならない、私がいくらやりたいと思っても予算的な裏付けが取れなければやれない。

記者／ご自身の選挙も近々迫ってきている状況で、少なからず何か影響が出てしまうことにもなるのかと、この話に関しては。

市長／私自身ハードにお金を使ってきたという記憶はないが、ハードものでこういうものを作ります、ああいうものを作りますなんていうことを言うつもりはない。市の財政状況から見ても。ただ国の幼児教育の無償化の話があるが、あれは一定程度財源がこっちに来る。6月議会でも答弁したが、一定程度酒田市としては県内でもかなり良いほうの保育料の軽減策は立てていきたいという意味を持っているので、そういう方向で財政課からは予算組みをしてもらいたいと思っている。あとそれ以外については、全体を見ながら少し。財政力指数 0.48。この間、成田市に行ってきたが、1.25 だった。成田空港があるからだが、類団都市。向こうは人口約 13 万人、本市は 10 万ちょっと。うちに成田空港があれば今頃ウハウハだったんだろうなと思うが、そういうはいかない。やはり、財政力指数上げるためにも、税収あげなきゃいけないということになると、ふるさと納税では少し執行猶予ついてしまったが、所得を上げるための施策をそこそこやっていかなければいけないというところはある。産業振興だとかも自分としては力を入れなければいけないが、財政状況を見ながら何を優先するかしっかり来年度予算策定までの間には内部で検討しなければならないかなと思う。

記者／ふるさと納税の執行猶予が解けそうな見込みは。

市長／間違いなく解けると思う。9月から大丈夫。執行猶予付いているにも関わらず、増えているということで、ありがたい話。でもやはり財政は厳しい。

記者／その中で市長が今までやってきたこと、特に駅前とかもあるが、随分前から予定されていることだとは思いますが、財調なかなか積めない状況というのは去年の水害とかがあった影響が大きいのか。

市長／災害復旧で補正したから確かにあると思うが。あと予定外でズドンといったのはエアコンくらい。

財政課長／エアコンもあるし償還金もある。

市長／償還金は年度がずれてるだけの話だと思う。

記者／エアコンは国からの補助はどのくらい。

市長／3割くらい。

記者／それくらいしか来ないのか。

市長／つまり補助対象事業が一部屋 300 万かかるとして、丸々補助対象になるわけじゃない。国はああやってかっこいいこと言うけどからくりがあって、こっちが一般財源投入しなければいけない。しかも実質 2 年間。1 年でやらなければいけないわけだから。あれは全くのイレギュラーだったというか、大きかった。全く想定してなかった。ある意味災害みたいなもの。夏休みの対応ということでなったわけなので。もうちょっと財調ためといってもよかったのかなという思いはある。

記者／今いくらあるのか。

市長／今 30 億。

財政課長／今年度投入する分を考えないで、前年度末で 30 億くらい。

記者／市長としてはいくらくらいためておきたいか。

市長／かつてどれだけあればいいかという質問が議会で出たことがある。私が財務部長の時に類団都市で会津若松が標準財政規模の 1 割くらいだと答弁をしていたのがあった、大体規模も同じ。そのころの答弁で私が言ったことがある。10%とすると 30 億前後かなといったことがあるが、何も国の基準を持っているわけでもないし、本当に感覚的な話でしゃべった。それが少し一人歩きして、議会ではその 1 割くらいというふうなとらえ方をしている議員さんがいっぱいいると思うが、実際は他の所を見てもそんなに少ないところはあまりない。もっと多い。

財政課長／類団都市ではもっと多い。

市長／奥州市は 90 億くらい。だいたい同じくらいの財政。標準財政規模が 300 億。財政調整基金は確かに大切だが、貯めればいいというものでもない気がする。やらなきゃいけないことに使うのが本来行政の使命。だからいくらが適切と言われると難しい。今回のように災害や除雪などズドンと大きいのがきたときに、財政調整基金を財源として処置できるくらいのお金は持っておきたいと思うし、30 億はちょっと少ない気がする。

記者／来年度予算に向けて財調の積み増しは方向性としては考えているか。

市長／さっきも言ったように、事業のあと送りとか今年やることをやらないで残せば積める。今のところ私自身としてはそこまで判断しきれていない。年度の予算は一応組まれている。財調を積みたいがどうかというところは、そう簡単ではないと思っている。

記者／市長選があるが自身の事務所開きだとか総決起集会の予定は。

市長／事務所開きは参議院議員選挙終わってからのにしたいと思っている。7 月中に何とかやりたい。総決起集会についても 8 月に入ってからのになると思うが調整中。

記者／鳥海山の万助小屋の痛みが激しい。不安に思われている登山者も多いが。

市長／施設は本市のもの。エリアとしては遊佐にある。

地域創生部交流推進調整監／鳥海国定公園観光開発協議会という組織があり、点検登山など夏を終えた時点で来年度どうするか意見交換会をしている。山形側だけでなく、秋田側も含めて登山道の整備などもやっている。そこでは話題として出てい

なかったので、少し意識しながら話をしてみる。

副市長／施設関係については各課から出てきたものを、市全体で優先順位をつけて、優先順位の高いものから予算をつけようということをやっている。

以上